

## 澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年1月30日（金）15：45～16：00

場所：内閣府

### 【冒頭発言】

29日の首席交渉官の全体会合は、午前中のみであった。最初は、物品関税だけでなく、サービス・投資のNCM（不適合措置）や政府調達の基準額などを含めた広い意味での市場アクセスの交渉状況について、各国から現状を報告しあい、前に進めていこうということになった。市場アクセス交渉の常だが、平場で議論しても、お互いの立場の表明に終わり、今回の場で何かが決まったということはない。

次に金融サービスで、作業部会から進捗の報告を受けた。こだわりの強い国がある問題が1つある他、広く言えば、それ以外にもテクニカルな論点が残っているが、投資チャプターとの整合性等の話であり、いくつかの国が議論している状況である。

引き続き、昨日できなかった繊維について議論し、作業部会からの報告を受けた。テキストについては、ずいぶん進んできているということである。残っているいくつかの課題は、意見を言っている国の間で適宜進めることとなった。

午後は、全体会合はやらずに、特に環境について、少数国で論点整理を行うことになった。環境で残された論点はいくつかあるが、それにかかわる国同士で直接に議論した方がいいということになり、平場ではなく非公式の調整が続けられている。

その間、鶴岡首席交渉官は1か国とバイの協議を行った。

大江首席交渉官代理は、1か国と先方の首席交渉官も交えて2対2で協議を行った。別の国の首席交渉官とも短時間の議論をした。

最後に、ここ数日の報道について、オンの場で申し上げたいことがある。

TPP交渉に正式に参加して以来1年半、皆さんには何度となく、適切な報道をお願いしてきたところだが、ここ数日、昨年4月の日米首脳会議直後のように、様々な情報が飛び交う状況となっているのは残念である。

私が日常的に皆さんの取材に応じるときに心掛けている3原則がある。厳しい制約の中で、私としても国民の皆さんに交渉の状況を、可能な限りお伝えしたいと努力する中で、それでもこれは困るというものである。

第一は、わが国が合意していない、提案していないのに、合意した、決まった、提案したなどと書かれるのは、明らかに誤報であり、国民に誤解を与えるので、これには公の場で誤報であることを当方としても発信することとしている。日曜日

の記事について、甘利大臣が会見の場で「事実と反する」と申し上げたのはまさにそういうこと。今日の昼に流れた「牛・豚肉の輸入制限措置は決着」というのも、同様に誤報であると明確に申し上げたい。

第二は、国際交渉をしている相手方がどういう提案やリクエストをしているか、これは国際常識として、当方から言うべき話ではない。これについて記者の皆さんがどこかで取材をして記事にする内容については、真偽を問わず、私は一切コメントをしないことにしている。

第三は、わが国の交渉チームで内々に検討中の内容について、これはまさに作戦そのものであり、事前に相手国に漏れることはあってはならない。皆さんがどこからか聞いてきた話を政府が検討中、調整中、提示する予定などと書かれても、私はこれについても、真偽はともかくとして、一切コメントしない。

第二、第三については、私がいつものように「誤報」と言わないので、皆さんがもしかして誤解して安心して書かれているのであれば、それはよくよく考え直していただきたい。

交渉はパッケージだから固まっていないと、私もよく言うが、最近これを言いすぎるので、皆さんは、最終合意まではすべてが未決着ということを経験しているだけで、実際は一部を除いてそのパーツは固まっているのだらうと思われるのかもしれない。

しかし、TPPの交渉はいわば異次元の交渉であって、さまざまな交渉が同時並行で走っている。日米の農産品についても、様々な品目の協議が並行して走っている。そういう中で、すべてのパラメーターが相関関係にある複雑な方程式を、大詰めの今の段階では、オファーとリクエストのやり取りというよりは、お互いの共同作業でパッケージをまとめていこうとしている。

こういう交渉だからこそ、適切な報道を通じた国民への情報提供が重要であることを十分認識した上で、皆さん方には、今後とも適切な報道をぜひお願いしたい。

#### 【質疑応答】

(記者)

環境は、少数国会合のみで扱ったのか。

(澁谷審議官)

29日はそのような展開。

(記者)

大江代理のバイ協議の相手方とその進捗状況について。

(澁谷審議官)

厳しい交渉が継続中ということである。

(以上)